

# インクル

第10号

財団法人 共用品推進機構

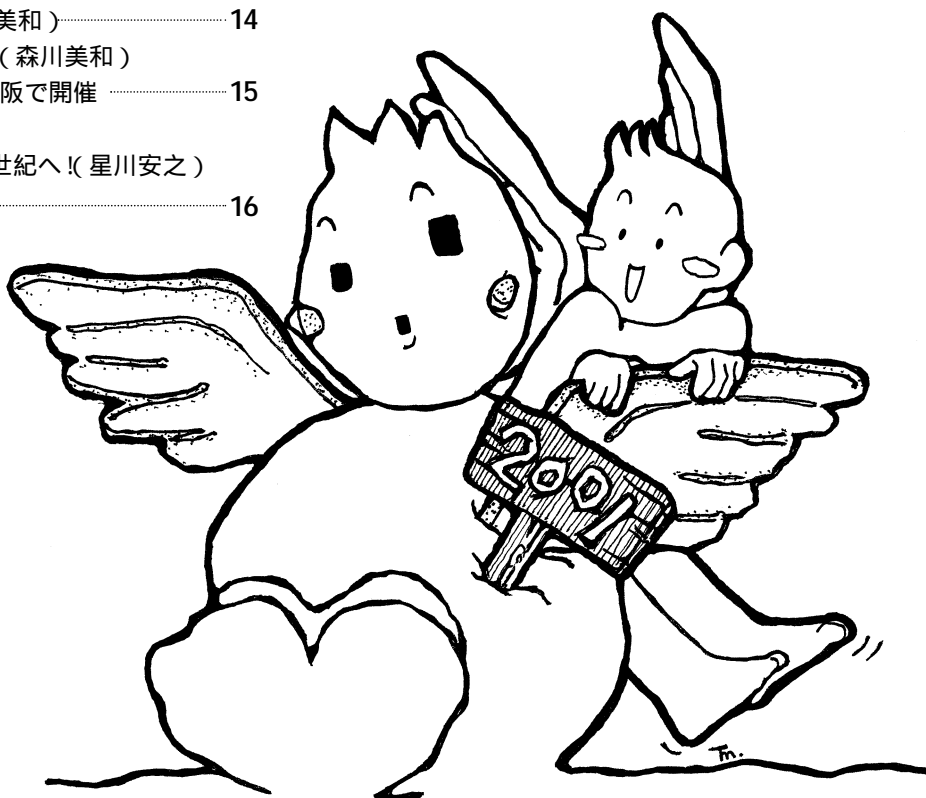
〒101-0064  
東京都千代田区猿樂町  
2-5-4 OGAビル 8階

"Incl." by The Kyoyo-Hin Foundation

## 目次 / Contents

- ・米国バリアフリー報告 共用品を支えるサービスとハート  
第5回 障害学生支える情報保障サービス(草地美穂子)..... 2
- ・新世紀幕開け特集：  
万能通訳機、自由移動車、ロボットが「新・3種の神器」  
みんながほしい「夢の共用品」はこれだ！..... 4  
「障害のある宇宙飛行士」を日本が実現させよう！  
山根一真さん(評議員) 大いに語る..... 7
- ・速報：共用品・共用サービスの新定義と原則  
「より多くの人々が共に利用しやすい」と明記(青木 誠)..... 8
- ・キーワードで考える共用品講座(後藤芳一)  
第10講 共用品の定義..... 10  
第10号記念特別編 共用品講座の有効な活用法..... 11
- ・ニュース&トピックス  
[新製品] TOTO、「パブリック用折りたたみシート」を発売..... 12  
[セミナー] 『いくおー』創刊10周年記念講演を2月に開催  
[共用品推進機構]  
世界盲人連合総会会場で共用品を紹介!(高橋玲子)..... 13  
機構ホームページから書籍購入が可能に(森川美和)..... 14  
『平成12年版 障害者白書』、共用品を大特集!(森川美和)  
「新ISO<ガイド71>シンポジウム」を東京、大阪で開催..... 15  
[事務局長だより]  
20世紀最後の「大転換」、そしてワクワクの新世紀へ!(星川安之)
- ・『インクル』からのお願い/奥付..... 16

(イラスト：牧内 智子)





共用品を支えるサービスとハート

# 障害学生支える情報保証サービス

くさち みほこ  
草地 美穂子(在サンフランシスコ)

第

5  
回

祝・新世紀。今号が読者のお手元に届く頃、筆者は晴れてカリフォルニア州立大学を卒業し一息ついているところだろう。聴覚障害学生として筆者が受けてきたさまざまな情報保障・アクセスサービス、教授や級友たちから学んだ障害観や社会観など、実り多かった大学生生活の一端をご紹介します。

アメリカでは障害のある学生(国籍不問)に対する障害補償が法によって義務づけられている。筆者が3年半前にアメリカ留学を決意したのも、日本の大学では受けられないさまざまなサービスが無償で受けられると知ったからだ。初登校日、最初に訪ねたのは障害情報センター。聴力検査表とオーディオロジスト(有資格聴覚検査技師)の署名入りの障害証明書を見せると、すぐに登録手続きをしてくれた。

私が卒業までに受けたサービスは、「FM補聴援助システム」と「リアルタイムキャプション(同時字幕)」。どの授業でも使ったのはFMシステムで、教室のどこに座っても教授の声がマイクを通して耳元ではっきり聞こえた。少人数のセミナーではマイクを各発言者に回して使ってもらった。が、大規模な教室では困難なので、この場合は同時字幕で発言内容を読みとった。どちらのサービスも個人負担では購入不可能な高額

で最新の技術を導入している。

## あらゆる障害に対応 ただし、あくまで自己申請で

視覚障害のある級友のアマンドさんが受けたサービスは「スキャニング・テキストリーダー」と「パーソンリーダー」。前者は教科書の文字を読みとって音声変換する機器で、ハード・ソフト合わせて数千ドルはする。彼はこれで教科書をCD-ROMやテープに落とし持ち歩き、好きな時に聞いて勉強したという。後者は膨大な課題図書から重要なページを選別したり、音声化できないグラフや写真などをわかりやすく説明してくれる代読者のことで、コース内容に明るい優秀な人を指名するのに苦労したとか。このほか、講義を録音するための携帯型カセットレコーダー(4倍速録音)、音声情報の集約・編集作業に効果的なラップトップ・パソコン、音声備忘録のボイスメイトを常時利用した。彼はこれらを職場や家でも使うため、大学ではなく州のリハビリテーション省(障害者の雇用促進機関)の助成を受けて個人所有している。

学習障害のあるデ克蘭さんは、もっぱら制度上のサービスを利用していた。例えば、テストの制限時間延長と個室受験。彼はいつも2倍の時間を要求して



半円形に座席を配置した講義風景。左から2人目がFMシステムを首から提げた筆者。前に置いたパソコン画面には、右隣に座る法廷速記タイピストのジャンスさんが正確にタイプしてくれる講義内容が映し出される (写真: 草地美穂子)



級友のアマンドさんが「スキャニング・テキストリーダー」を使ってパソコンに教科書を音読させているところ。モニターの左側にスキャナー (写真: 草地美穂子)

いたが、ほとんど健常学生と同時に終えていたという。が、「与えられた権利は利用しなくちゃ。結果的には使わなくてすんだサービスも多いけど、あるのとないのとでは精神的に大違い」と語る。

現在、センターに登録する障害学生は約700人。うち約半数がデクランさんのような学習障害のある学生だ。以下、移動・歩行障害(25%：頸肩腕障害・リウマチ・ポリオなどを含む)、視覚障害(10%)、聴覚障害(5%)、その他(10%：エイズウイルス感染者・エイズ患者、精神・情緒障害、環境障害＝香水・汚染大気などに対するアレルギー)となる。

同センターのカウンセラー、ブラウンさんは「ここ数年、複数の障害を持つ学生が増え、提供するサービスも複雑になってきた。障害者の社会参加が進んで社会の偏見が薄れ、障害学生自身による権利要求が常識になりつつあるからだろう」という。

だから、サービス提供はあくまで自己申請本位。明らかに障害のために困っている様子でも、本人が要求しない限りセンター側から手助けすることはない。逆に要請があれば、障害の特性を細かく査定して、必要ならば複数のサービス受給を認める。なかには、センター内だけでは提供しきれない専門的なサービスもあるので、外部機関と契約して専門家を派遣してもらうこともある。例えば、手話通訳士や同時字幕タイピスト、移動・歩行訓練士、学習障害専門のカウンセラーなどだ。

## 【 誰もが同じスタートラインに！ 社会教育貫く「多文化主義」 】

同センターでは、障害者に対する差別や無理解をなくすための啓発活動もしている。例えば、各学期開始前には障害学生が登録したクラスの教師に手紙を送り、その学生の障害の特徴、障害補償の方法、クラス内で配慮すべき点などを説明する。

障害学生自身への啓発教育も行う。自分の障害に対する否定的な考えを正し、障害の有無に関わらず全学生が平等に教育を受ける権利があること、裁判など法的措置に訴える手段もあることを説明する。

カウンセリング科の授業で学んだことも多い。必修科目の中に「多文化カウンセリング研究」というのがあ

カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校で提供されているアクセス・情報保障サービスの例

### 通学期

受験・入学書類記入代替サービス、授業優先登録、代筆者、代読者、障害者専用パーキング、キャンパス移動シャトル、歩行・移動訓練士、手話通訳士、同時字幕タイピスト、補聴援助システム、カセットライブラリー、大活字版教科書、点字版プリント、コンピューターラボアシスタント、チューター(補習アシスタント)、点字作成機、通常印刷物を大活字にする装置、音声操作コンピューター、高齢者授業料無料など

### 中間・期末テスト期間特別サービス

所定の用紙に必要事項を記入して指導教官のサインをもらい期日までに提出すると、希望のサービスが受けられる。主なものは、延長時間(1.5～2倍)、個室受験、答案代筆者、テスト代読者、大活字版テスト、電子辞書、特別仕様の机、各種障害対応のコンピューターなど

り、障害者・高齢者も人種・民族と同様、独自の文化を持つ集団として対等に扱われているのが新鮮だった。人間を「支配：被支配」、「大多数：少数」、「優：劣」といった2分割法で見える見方はもはや古く、「多様な価値観を持つ集団それぞれに固有の価値がある」というマルチカルチュラルイズム(多文化主義)がアメリカの社会教育の主流である。

このクラスでは、誰からも話者の顔が見えるよう学生の座席を半円形にしたり、授業内容を話すだけでなくOHPやプリントにするなど、誰にでも有益な共用サービスが頻繁に提供された。ほかにも「私のテストは速さではなく、理解の深さを見るのが目的だ」と言っていて、全学生にテスト時間を無制限にした先生もいて、教育の原点を考え直させられた。

ここで気をつけたいのが、アメリカは障害者に「やさしい」社会ではないことだ。むしろ、誰にでも厳しい。健常者と同じスタートラインに立つためにさまざまなサービスがあるのであって、その先のコースをどう走るのは各個人の能力次第であり、評価は公正な競争原理に基づいている。障害があるからといって甘えは許されない。

私もこれからは社会人として、地域の中にはまだ残っているかもしれない無理解・差別に個人で闘わなければならない。が、3年間の学生生活で培った精神的エネルギーは無尽蔵。どんな挑戦が待ち受けているか「楽しみ」でもある。

新世紀  
幕開け  
特集

# 万能通訳機、自由移動車、ロボットが 「新・3種の神器」

みんながほしい「夢の共用品」はこれだ!

21世紀の新3種の神器は「万能通訳機」「完全自由移動装置」「ロボット」。新世紀の幕開けを迎え、『インクル』が読者に募集した「夢の共用品」アンケートで、こんな結果が出た。通信技術(IT)はじめ科学技術の発展に私たちが期待する「不便さ解消」の具体的なテーマと見ることもできそうだ。

短い期間であったにもかかわらず、約60人からユニークな共用品のアイデアが寄せられた。楽しいネーミングやアイデアの着眼点など「知的所有権」を明らかにするために、可能な限りお名前を掲載させていただいた。企業の企画・開発担当者の皆様方、これらを商品化される際には必ずご本人か本誌にご連絡くださいね!(大真面目です)  
(高嶋 健夫)

## コミュニケーション機器 誰でも誰とでも自由に対話

回答数が最も多かったのが、夢の多機能コミュニケーション機器。1台で視覚障害者や聴覚障害者にも使え、どんな外国語もすぐわかるといった「万能通訳機」的なアイデアが特に目立った。代表的な「新商品」をいくつかご紹介しよう(カッコ内は発案〔発明?〕者、敬称略、順不同)。

【ホンヤク・コンニャク】音声入力 文字出力、手話入力 音声出力など、さまざまな表現の情報を、自分が一番理解しやすい方法に翻訳してくれるマルチ端末(名前は「ドラえもん」から) (近藤美恵)



(イラスト: 牧内 智子)

【アイコンマシン】しゃべっている言葉がリアルタイムで文字やイメージとなって字幕のように空中に浮かぶ装置 (高嶋勝敬)

【携帯型共用通訳機(液晶付き)】各国語、方言、手話などを自動翻訳する機械。さらには、知的障害者が何を言わんとしているのか、赤ちゃんや老人が言おうとしていることも翻訳できる (小塚通宏)

【ユニバーサルモバイル端末】世界中どこでも使用可能で、画像・音声・データの通信、自分の居場所や行く場所案内ができ、現地の言語に翻訳してもらえ、必要な情報がその場で入手できる煙草大のモバイルターミナル (皆川泰平)

【フルメディア・アクセス・システム】テレビ、電話、インターネットなどのあらゆるメディアの音声、文字、手話、点字、その他をメディア、言語を越えて、相互に変換して提供するサービス (高岡正)

【みんな選べるン】音声案内もあるメニュー表示(テレビガイド、ATMガイド、レストランのメニューなどなど) (村上峰雪)

【It's a「いつでも、どこでも、だれとでも」】いつでも、どこでも、誰とでも、コミュニケーションがとれるコンパクトな機器 (星川安之)

【バリアフリー地図】どんな人も使える、持ち運べる地図。自分の居場所に合わせ周囲の店の情報や道順、交通情報を教えてくれる (田中伸次)

- 【万能個別対応型電話機】テレビ、ビデオカメラ、ナビゲーター、ファクス付き携帯電話 (男性)
- 【難聴者向け音声伝達機】携帯用カメラで撮影すると口の動きを分析して、音声を人工音声で難聴者にイヤホンで伝えることができる機器 (男性)

### 移動装置

地上も、空も、海中も、自在に翔る!

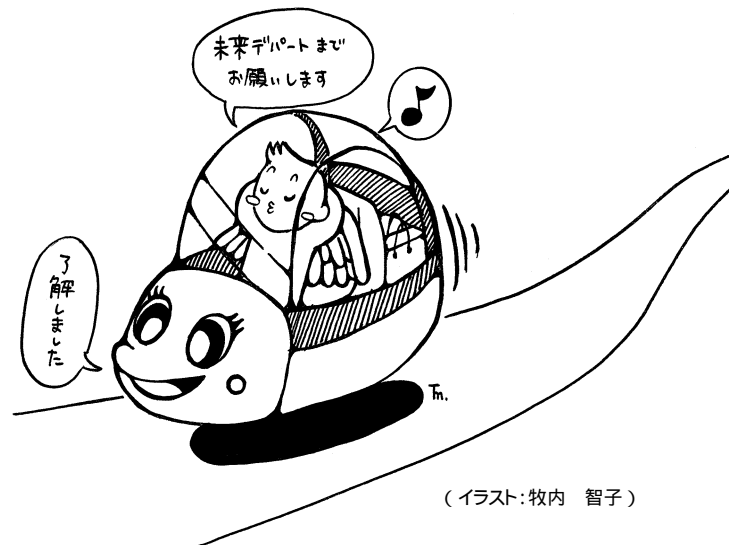
数ではコミュニケーション機器に匹敵する多さだが、内容はより多彩。この分野の回答では、「交通機関の車いすの固定バーの設置普及」「都市のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化」「完全バリアフリー交通網」など、夢というよりは現実的な意見や問題提起が多かったことを指摘しておきたい。

【空飛ぶ車いす】障害のある人もない人も、とにかく乗ってみたいくなるようなカッコイイ、しゃれたデザインで、軽くてコンパクトな陸空両用、夢の車いす (堤愛子)

【テレカー】行きたい場所の電話番号を言えばOKの車 (高原光子)

【視覚障害者でも泥酔した人でも運転できる自動車】道路と自動車内のコンピューター制御で運転できるシステム (芳賀優子)

【全自動車】行き先を言うと、自動運転して連れて行ってくれる自動車。子供でも高齢者でも障害者で



(イラスト:牧内 智子)

も運転できる。もちろん、安全で、歩行者にも優しい運転をしてくれる (荒井聡)

【パーソナルカー】自動車並みの機能を持つ車いす。健康者も肢体不自由者も同じパーソナルカーに乗って移動する (新井文吾)

【plump coat】透明なジェル状の層の中に入ること、海の中を歩き、散策できる (佐藤アツキ)

【飛べまっせ】自分の意志で自由に空を飛び、移動できる (藤沢真紀)

【トラベルケアー/イベントケアー】障害者や難題を抱える人が楽しく、1人で、感動的な旅やコンサートに行けるシステム (樋瓜秀行)

## シャンプー・リンスが一番人気

「好きな共用品」、Eメール、携帯電話が続く

アンケートでは「今ある共用品・共用サービスで好きなもの」も尋ねた。その結果、40を超える製品・サービスが挙げられたが、複数の支持が寄せられたのは10アイテムに満たない。上位は次の通り。

- (1) シャンプー・リンス容器 (7人)
- (2) インターネット (電子メールを含む) (5人)
- (3) メール機能付き携帯電話 (4人)
- (4) プリペイドカードの切り欠き (2人)
- (4) 電車内の電光掲示 (2人)
- (4) テレホンバンキング (2人)

ほかに、音声ソフトや缶・蓋オープナーがそれぞれ、別の製品名が挙げられたものの、複数の支持があった。

シャンプー・リンスが好きという人は、「目が悪いのでとても便利」(女性・58歳)など、実際に使ってみて良さを感じているばかりでなく、「共用品の考え方の原点。説明しやすく、誰にでもわかりやすい点がいい」(男性・45歳)といった代表選手としてのわかりやすさを評価する声が多かった。

インターネット、携帯電話、電子メールはいずれも、「視覚・聴覚障害者はじめ多様な人々の生活を大きく変えた」(無記名)など、まだまだ多くの課題を抱えている点を指摘した上で、「コミュニケーション革命」を実現したことを評価したものだ。

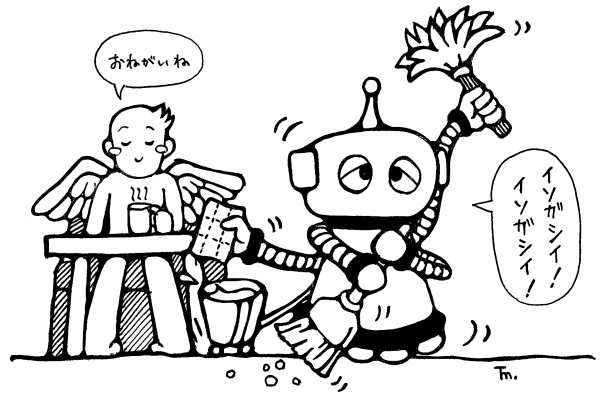
このほか、ユニークな回答をいくつか紹介しよう。

屋台 = 相席、譲り合いが当たり前で昔からあるバリアフリー店舗形態 (男性・32歳) 従業員の笑顔 = スマイルパワー (女性・25歳) 入れ歯入れ = ある百貨店のバリアフリーコーナーで見てカワイイと思った。でも、何がバリアフリーなのか今でもわからない (女性・31歳)

【乗り降り安心君】電車とホームの間のすき間をなくすもの (前田哲也)

【ホバリング移動機】空気移動やUFOのような無重力操作によって地表と界面を設けて慣性だけで動く可変速移動機。推進動力は指で壁や物を押すだけ。飛行安定性からいす型が無難と思えるが、「空飛ぶじゅうたん」も可能。ただし、三次元的交通整理と「譲り合い」が必要に (大崎照起)

【行きたいところに行けるROAD】乗り物、アクセルが負担を感じずに利用できる道 (森川美和)



(イラスト: 牧内 智子)

## ロボット

「盲導・聴導・介助」の1台3役

癒し機能から、介護・介助、家事代行、危険作業までを1台でこなす万能ロボットへの期待は予想以上に大きいようだ。姿・形は、やはり人間型やペット型が主流になりそう。

【ロボット掃除機】リモコンで操作できる家庭用掃除機。センサーで障害物を避ける。車いす使用者、高齢者、妊産婦らの助けになる (佐藤俊夫)

【お掃除ロボット】危険な外窓を磨く作業もしてくれる家庭用ロボット

(森川久美子 = 事務局・美和さんのお母様です)

【かんたんくん】機械は便利。でも、あまりに多くなってきた操作、選択肢を話し言葉で簡単にしてくれるといい (渡邊嘉也)

【盲導犬&聴導犬&介助犬ロボット】「AIBO」などのプログラムを、持ち主の使い方によって柔軟に変える。子供や高齢者が誘拐されそうになった時には守り、夜道では目がライトになったりもする (越濱真由美)

【留守番ロボット】留守の時、ペットにエサをやったり、電話の対応をする (吉永栄治)

【生活補完型万能ロボット】日曜大工もできるような高度な技能を持つ (岩瀬好彦)

【万能介助通訳犬ロボット】語学の通訳はもちろん、知的障害のある人には本人の意思を周りの人に伝えたり、周りの状況を本人に説明したりできる。犬でなくてもいいけれど、機能一辺倒のごついロボットではなくて、動物型がカワイイかな (女性)

## 家電・家庭用品など

もっと使いやすく、もっと軽い力で

「新3種の神器」以外でも、楽しい、ユニークなアイデアが多数寄せられた。中には、ただ単に無精しただけのように見える物も……。まあ、それも共用品ですけどね。

【人工視覚器/人工聴覚器】人工視覚器は可視光線はもちろん、紫外線、赤外線も見える。紫外線を見て飛ぶチョウチョウと同じ視界を体験でき、赤外線を見て暗闇の中でも自由に歩ける。人工聴覚器では超音波も聞こえるので、夜間の歩行や水中での行動にも役立つ (長谷川真夫)

【ぶきっちゃん向けドアチェーン】今のチェーンは高齢者などには装着が大変。持ち手が扱いやすく、安全なものを (近藤和子)

【永久コンタクトレンズ】1度つけたら外さなくていい、洗わなくていい、不快感なし (三宅裕美)

【エアバス = 空気風呂】お湯のお風呂と同じ効果「洗う・温まる・リラックス」を空気を使ってできるお風呂 (江本次幹)

【ふわふわお買い物バッグ】軽くて丈夫な素材で小さくたためる。使用する時は息を吹き込むと浮力が出て、買った物をたくさん入れても重くない、腕や手に食い込まないバッグ (若山直子)

【家庭用ワークステーション】65歳以上の高齢者が対象。熟年の知的なライフスタイルをサポートするPC作業や趣味の世界を楽しむための専用機。さまざまな姿勢に対応でき、コンパクトで木製。いすは120度以上、後に傾けられる (関壮一)

# 「障害のある宇宙飛行士」を日本が実現させよう!

山根一眞さん(共用品推進機構評議員)、大いに語る



21世紀の共用品開発の方向は? そして、共用品推進機構がめざすべき目標は? 「メタルカラーの時代」で知られるノンフィクション作家で、共用品推進機構評議員でもある山根一眞さんにお話をうかがった。  
(取材・構成・文/高嶋健夫)

今、考えているのは、「2025年月オリンピック」の実現。重力が地球の6分の1の環境でスポーツはどう変わるか、興味深い。パラリンピックの方がより影響があるかも知れませんが。

一見、途方もないほら話に聞こえるかも知れませんが、こうした具体的な目標を設定することが、技術の進歩を促すんです。みんながその目標に向かって動き出す。科学的な研究も、それを支援する市民の機運によって後押しされるのです。

その第一歩にもなるんですが、本気で仕掛け始めているのが「チャレンジド・スペースディベロプメント・プロジェクト」。具体的には、「障害のある宇宙飛行士」をスペースシャトルで国際宇宙ステーションに送るという計画です。NASDA(宇宙開発事業団)にも提案しているんですがね。

きっかけは、向井千秋さんが宇宙から募集した例の短歌に、多数の障害のある方々から、夢のある下の句が寄せられたことです。私は選考委員の1人だったのですが、そのことに感動しました。「宇宙は、地上の重力に悩まされている人々にとっても新天地になりうるかも知れない」と考えたわけです。

是非とも数年内に実現させたい。それも、日本のリーダーシップと技術力で実現させたい。アメリカにやらせては意味がないのです。実際に宇宙に行くのはアメリカ

人でも、インドや中国の方でもいいが、日本が世界の先頭に立って計画を立案し、実行することが大事なんです。そうすれば、世界中の人たちが尊敬してくれるし、協力もしてくれますよ。

共用品も同じ。これから一番大事なのは、人材の育成だと思います。アジアやアフリカでも共用品が普及するように、技術開発を指導する人材養成を日本が積極的に支援することが重要です。

「砂防」という言葉がありますが、いまや世界中で「sabou」で通じるようになってきました。政府開発援助(ODA)の一環でJICA(国際協力事業団)がインドネシアに砂防技術者の養成機関を設立し、日本の技術者が指導に当たってきたんですが、そうした地道な活動の成果なんです。共用品も、こうした国際活動によって「Kyoyo-Hin」として定着していくのではないのでしょうか。

ところで、つい最近、わが家に新しい家族が来ました。犬のレイ(Ley)です。雑種でオス、推定2歳。聴導犬の候補生だった犬です。でも、最終的には落ちて、わが家に来ることになりました。

聴導犬は雑種を訓練して聞こえない方々に渡されるのですが、合格するのは実に300頭に1頭だそうです。つまり、1頭の聴導犬を育てるためには、落第した299頭をその後育てる「里親」が必要になるわけです。そうしないと、この犬たちは保健所に引き取られ……となるからです。ペットブームの中でみんなで考えたいことの1つです。

未来というとすぐに新しいテクノロジーに目が向きがちですが、技術はほっといても発展します。それよりもむしろ、私たち1人ひとりの市民ができること、とりわけ、みんなが「いいね!」って感じることを考え、実行していくことが、明るい未来を築いていくためには大切なのだと思います。



速報 共用品・共用サービスの新定義と原則

# 「より多くの人々が共に利用しやすい」と明記

あおき まこと  
青木 誠(共用品推進機構運営委員兼企画委員)

昨年12月8日、「共用品・共用サービスの定義と原則<2000年度版>」がまとまった。共用品推進機構の企画委員会を中心に昨年6月から検討を続けていたもので、「誰にでも納得してもらえる共用品の基準」を明確にしておこうというのが目的である。

「共用品の条件は何か?」「定義は?」「ユニバーサルデザインとの関係は?」など、わかっているつもりでも改めて第三者に理解を求めたり、共用品・共用サービスの選定を厳密に行おうとする時、信頼に足る「体系的な概念の決定版」が用意されていることが望ましい。

国際標準化機構(ISO)で進められている高齢者・障害者配慮設計のガイド策定における定義づけやさまざまな関連用語との調整・確認作業に参画する中で、“Kyoyo-Hin”に関する記述をできるだけ多く盛り込んでおきたいという期待もある。そのためにも、共用品のアイデンティティを再確認し、いっそう強化しておかなければならない。善は急げということになった。

## 共用品・共用サービスの旧「5つの基準」

身体的障害や機能低下のある人にも、ない人にも、共に使いやすくなっている製品・サービスであること

特定の障害・機能低下の人向けに開発された「専用品」でないこと

どこでも、いつでも、一般的に入手したり、利用できること

一般的な製品・サービスと比較して、特別に高価ではないこと

継続的に製造・販売・提供されていること

出所 共用品推進機構『共用品白書2000』

## 旧「5基準」ベースに、見直し・検討

共用品に関しては、「5つの基準」というものがすでにある。E&Cプロジェクトの草創期に、当時のメンバーによってつくられたもので、これまで十分その役割を果たしてきた。

しかしながら、この5つの基準、実は初めてのイベント開催にあたって急遽、E&C流の迅速作業で完成させたものである。今日、公益法人である共用品推進機構としての立場で対外的に対応する際に、この5つの基準が必ずしも適切であるとは言い切れない場面が出てきたという事情もある。

このため、検討作業は5つの基準を見直すかたちで、まずは定義を考えることから始まった。旧5基準の第1項「身体的な障害・機能低下のある人もない人も、共に使いやすくなっている製品やサービス」をベースに、障害という言葉の扱いをどうするか、特に重視しつつ検討を進めた。

同時に、大部分の場合に当てはまる基本的な法則・規則を示すものとして、新たな「原則」を定義とは別に設定することになり、旧5基準の第2項以下をたたき台に検討を開始した。

一連の検討過程で、旧第2項「特定の人向けに開発された専用品ではないこと」は、前項ですでに表現されている内容と重複するとみなされた。旧第3項「一般的に入手や利用の可能なもの」、旧第4項「一般的な製品やサービスと比較して特別に高価でないもの」、旧第5項「継続的に製造・販売・提供されているもの」については、「一般的」といった表現が曖昧なことに加え、「価格や販売地域・継続性と共用品の存在意義とをあえて関連づけない」との認識を明確化した。

また、会員制、限定品、共用品開発意図のありなしなどについては、いずれも機能としての共用性を



# 共用品・共用サービスとは？

【定義】2000年度版

身体的な特性や障害にかかわらず、より多くの人々が共に利用しやすい製品・施設・サービス。

【原則】2000年度版

- 1 多様な人々の身体・知覚特性に対応しやすい。
- 2 視覚・聴覚・触覚など複数の方法により、わかりやすくコミュニケーションできる。
- 3 直感的でわかりやすく、心理的負担が少なく操作・利用ができる。
- 4 弱い力で扱える、移動・接近が楽など、身体的負担が少なく、利用しやすい。
- 5 素材・構造・機能・手順・環境などが配慮され、安全に利用できる。

【参考解説】

共用品・共用サービスとは、次の三者を包括する概念である。

- ① 最初からすべての人々を対象に、適合するよう考える共用設計。
- ② 一般製品の利用上の不都合をなくすバリア解消設計。
- ③ 福祉用具がもとで一般化した福祉目的の設計。

否定するものではなく、当面は「結果として共用が可能なら構わない」とされた。

公序・良俗に反するものは論外、デザインややさしさ、快適性もあらゆる製品・サービスに当然求められる基礎条件なのでここでは問わないこととし、環境問題との関連についても現時点では言及しないこととした。簡潔を目指すため、製品と製品との関係など、さらに細かな問題については実施細目、つまり今後検討を予定している「基準」のなかで規定していくこと、ISOガイドとの整合性を考慮しておくことなどが確認された。

## 技術革新・環境変化に対応、柔軟に改定

こうして決定した新定義の最大の特徴は「より多くの人々」の一語が加わった点である。「完全にすべての人」でなくても、「より多くの人」で十分であるという意味合いで、対象範囲をどれだけ広げられるかが大事なポイントであることを示している。

一方、新原則の方は、ISOガイド・マトリックス作成の知見をベースに構成したもので、「多様な

人々の身体・知覚特性への対応」を核に、情報の交換・操作・利用における心理的・身体的負担の軽減を極力具体的に示そうと努めている。

さらに、「共用品らしさ」を強調する狙いで、【参考解説】を添え、ユニバーサルデザインやバリアフリーデザインを包括した上位概念であると主張している。

また、今後の環境対応や情報技術（IT）の進展などによる状況変化に伴う改定を想定し、今回まとめた定義と原則は「2000年度版」と位置づけることになった。

■ 次号（3月15日発行予定）のご案内

## ISOに関するシンポジウムを特集

国際標準化機構（ISO）における共用品のガイド策定作業が大詰めを迎える中、次号では2月13日に東京、同20日に大阪でそれぞれ開かれるISOガイドに関する中小企業向けシンポジウムの模様を特集し、ISO最終案と共に詳しくお伝えします。

## 「共用品の定義」

ごとう よしかず  
後藤 芳一（個人賛助会員、日本福祉大学兼任講師）

共用品の普及とともに定義が進化し、厚みを増している。(小さい添え字は、同様の用語が「インクル」第1～9号の本欄に既出であることを示す)。

### 1. 「共用品」の定義(2000年版)

(財)共用品推進機構が昨年12月に定めた。定義>原則>参考解説>基準(検討中)で構成される。

「定義」は「身体的な特性や障害にかかわらず、より多くの人々が共に利用しやすい製品・施設・サービス」。「原則」は、身体・知覚特性への対応、複数の方法でコミュニケーション、心理的負担が少なく操作・利用、身体的負担が少なく利用、安全に利用できること—の5点。

「参考解説」は、共用品・共用サービスは共用設計、一般製品のバリア解消設計、福祉用具の一般化設計を含む—とする。従来の「5つの基準」を、ISOガイドライン(検討中)を考慮して見直した。今後「基準」を定める。

### 2. 「共用品」の周辺の定義

E&Cプロジェクト(共用品推進機構の前身)は1993年に「共用品・共用サービス」として、身体的障害や機能低下の有無にかかわらず使いやすい、専用品でない、一般的に入手・利用できる、一般製品より特別に高価でない、継続的に製造・販売・提供されている—という「5つの基準」を設けた。

リドグループ(E&Cプロジェクトに合流)は、82年に「グレーの部分」として、健常者と障害者の中間領域では双方が同じ用品を使えると提案。

ISOガイドライン(検討中)はアクセシブル・デザイン、バリアフリー・デザイン、トランスジェネレイショナル・デザインなどを定義している。

### 3. 「ユニバーサルデザイン」の定義

「ユニバーサルデザイン」について、米国の故口

ン・メイス氏は90年に7原則を示し、公平な利用、利用の柔軟性、利用法の単純さ、情報の認知性、エラーへの寛大さ、少ない身体的努力、適切な大きさと空間—とした。

ISOガイドライン(検討中)の定義では、「特別な改造や設計をせず、すべての人が、可能な限り最大限に利用できるよう配慮された製品や環境の設計」としている。

### 4. 産業界による定義

商品の解説などはあるが、定義の例は限られる。

(社)日本玩具協会が91年に「盲導犬マーク」を付ける基準として示した「晴盲共遊玩具に関するガイドライン」が代表例。電動玩具は音で位置や動きがわかる、模写した物は形・手触りが実物に近い、遊びの過程と結果を視覚以外で把握できる、手で触って意図せず崩れない、必要に応じ点字シールがある、手触り・音などで識別できる、スイッチはオンに凸表示や音で知らせる機構がある、電池を入れるふたの開け方・方向が手で確かめられる—とした。

### 5. 流通関係者による定義

昨年3月、流通業界で先駆的に「ユニバーサルスクエア」を設けた松屋銀座は、定義も明確に示す。

「ユニバーサルグッズは、高齢者や障害者のもとより、誰もが健康で安全・快適かつ豊かな生活を送ることができるような商品」とする。商品選定基準は、多くの人使いやすい、機能がわかりやすく操作が簡単、使う人の好みや能力に合う、使い方がわかりやすい、使う時に心理的負担が少ない、安全・安心性への配慮、効率よく気持ちよく疲れない、納得できる価格、デザインが美しく楽しさがある—とする。

ATCエイジレスセンターは「エイジレス」を、「年齢による格差や障壁のない」快適な社会とする。

(注:定義の表現などは、筆者の文責で略記した)

# 「共用品講座の有効な活用法」

## 1. 講座の目的

(1) この講座は、共用品・共用サービスに関心のある方や開発に取り組まれる方が頭を整理したり、企画書をまとめたり、周囲の人たちに説明する際に便利のように、との目的で始めました。

(2) 「共用品」という概念には、次のような特徴があります。

- 個別のモノではなく、アプローチの方法である
- 目的次第でいろいろな捉え方ができる
- 概念自体が、時間とともに変化している

例えば、は【図1】のような具合です。見る角度によって姿が変わるし、強引につかもうとすると尻尾だけつかんでいた、ということになります。

(3) このような時は、関連する言葉（キーワード）を押さえて網を張っておくのが効果的です。こうしておくと、かかわりの出たキーワードを組み合わせることによって、全体が見えることがあります。

## 2. 講座の用途

(1) 各講座の中の小項目から、大きく体系をつかめるようになっていきます。例えば「共用品の意義」(第1講=創刊号)には4項目あります。

ニーズ対応、企業経営、政策、社会的意義の4つ

です。これらの項目から共用品の意義を押さえることができます。

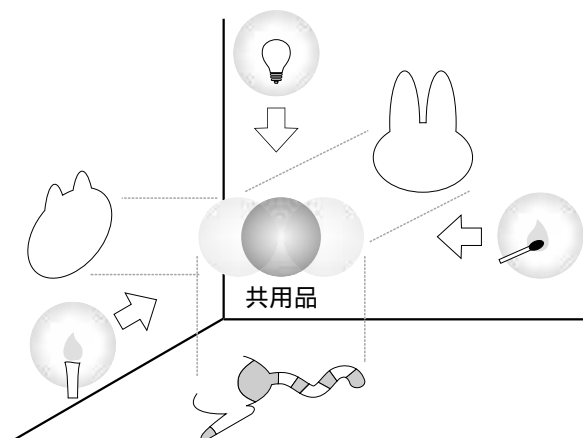
(2) 何回かの講座を組み合わせると、さらに用途が広がります。例えば、「共用品とコンセプト」(第3講)と「共用品の定義」(第10講)を組み合わせると、【図2】になります。「共用品」について、図から次のことがわかります。

- 「共用品」は「コンセプト」のうちでは「取り組みの方向」に含まれる
- 「共用品」は「アクセシブル」などと同じレベルにある
- 「共用品」の下位に「定義」などがある。
- 「定義」「原則」「参考解説」を合わせると「共用品」になる

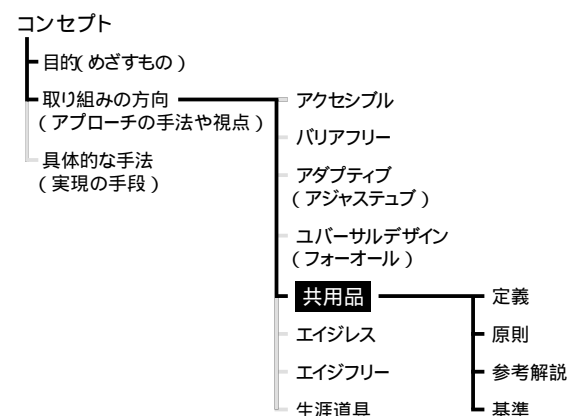
(3) どの講座を選んで組み合わせるかは、キーワードの右肩の小さい添え字がヒントになります(第10講の最初に登場する「共用品」は、第3講と第6講が関係することを示しています)。

(4) 個別のキーワードを詳しく説明するには「解凍」(キーワードの意味を30字や100字で記述)する必要があります。解凍するには、『共用品白書2000』や『バリアフリーの商品開発』などの文献(第4講参照)をご利用いただくと便利です。

【図1】光の当て方によって姿が変わる



【図2】第3講と第10講を組み合わせると



● ニュース&トピックス

新製品

# 「パブリック用折りたたみシート」を発売

TOTO、共用トイレや公共施設向けに

TOTOは、共用トイレ・多目的トイレ、障害者用トイレや脱衣室などに設置できる「パブリック用折りたたみシート」(=写真:右が使用時、左が収納時)を発売した。体の不自由な人が衣類を着脱したり、お母さんが赤ちゃんのおむつを取り替える際などに利用するもので、使わない時は二つ折りにできるので比較的場所をとらず、後付けで取り付けられるのが特徴。

本体サイズは、長さ1500×幅600mm、高さは車いすからの移乗がしやすい500mmに設定した。長さについては、トイレの広さなどに応じて1100~1800mmの範囲で変更できる。折り畳んだ状態では、奥行300×幅640×高さ1120mm。トイレの大きさが1800×1800mm以上あれば設置でき、施工も床に固定するだけなので



大規模な工事は不要という。

希望小売価格は35万円(税・工事費別)。同社ではハートビル法や交通バリアフリー法、各自治体の福祉のまちづくり条例など法令整備が進んでいることをにらんで、今後拡販を図っていく方針で、3年後に年間3000台の販売をめざしている。(高嶋健夫)

問い合わせ先：TOTO(株)レプリス販売推進部

(TEL:03-3595-9499、FAX:03-3595-9655)

● ニュース&トピックス

セミナー

# ADAと聴覚障害者について考える講演会

2月17日に、『いくおーる』創刊10周年を記念して開催

聴覚障害関係者の総合情報誌『いくおーる』が創刊10周年を迎えるのを記念して、2月17日にアメリカからADA(障害のあるアメリカ国民法)の専門家を招いての講演会(主催・ベターコミュニケーション研究会『いくおーる』編集部)が東京で開かれる。聴覚障害者に関する情報があまりない中で、施行10年後の今、ADAが聴覚障害者にどのような影響を与えているのか。現状に詳しくスポットを当てる。

この講演会のタイトルは、「『いくおーる』ミニイベント アメリカの風~障害者の自立に向けて」。講師はアーカンソー大学聴覚障害リハビリテーション学部長のダグラス・ワトソン博士で、演題は「ADAその後」。ほかに、「アメリカの聴覚障害者に対するリハビリテーション・サービス」についての講演も予定

している。

日時は2月17日(土)午前10時~午後4時。会場は、東京・品川区のきゅりあん小ホール(JR京浜東北線大井町駅下車徒歩1分)。参加費は事前予約3500円、当日参加4000円(空席がある場合のみ)で、全席自由席。定員になり次第締め切る。当日は聴覚障害者の情報保障にアメリカ手話通訳、手話通訳、パソコン要約筆記が付く。(高嶋健夫)

参加申し込み・問い合わせ先：

(株)ワールドバイオニア内ベターコミュニケーション研究会(TEL:03-3380-3324、FAX:03-3382-6565、E-mail:VZQ03313@nifty.ne.jp)まで。ただし、日・月曜・祝日、年末年始は休業。

## ● ニュース&amp;トピックス

共用品推進機構

**世界盲人連合総会会場で共用品を紹介！**高橋<sup>たかはし</sup> 玲子<sup>れいこ</sup>(個人賛助会員)

世界盲人連合(WBU)の第5回総会が約700人の参加者を集め、昨年11月20日から1週間、オーストラリアのメルボルンで開催された。今回の総会には、共用品推進機構メンバーの高橋玲子さんが参加した。以下は、高橋さんによる参加報告である。

国際標準化機構(ISO)が2年前から手がけてきた、製品やサービスのバリアをなくすための「ガイド71」が、いよいよ今春完成する見込みです。これは、今後ISOがさまざまな世界基準を作成あるいは改訂する際、重要な資料として参照されることとなります。しかし、概念だけでバリアフリーを実現させるのは至難の業。具体的にどうすればいいのか、実際にどんな工夫が可能なのか、そのノウハウやアイデアを1つでも多く蓄積することが、今とても大切なのだと思います。

さまざまな国の視覚障害者に直接会って、具体的なアイデアやノウハウを交換できるネットワークを作りたいと考えた私は、代表的な共用品と共遊玩具のサンプルを携えて、WBU総会を訪ねてみました。

世界100カ国から、700人以上が参加

「盲人連合」だなんて、なんだか厳めしくて古くさくて危ない団体なのでは？ 実は、私もつい最近までそう思っていました。でも、違うんです。100カ国を超える世界のさまざまな地域から、目の見えないリーダーたちが集まり、さらに良い社会を目指して今自分たちに何ができるのか、真剣に考え、実行しているのがWBUでした。この組織にはいくつかの委員会があって、それぞれ、盲女性の地位や権利について、視覚障害者の識字について、情報アクセスについて、障害のある子供たちを取り巻く環境についてなどの大きな課題に、国境を越えて取り組んでいます。

世界中のメンバーが一堂に会する全体総会はほぼ4年に1度開かれていて、“Changing What It Means To Be Blind”(「見えない」ということの意味を変えよう)

をテーマにメルボルンで開かれた今総会には、約700人の参加者が集まりました。メイン会場は階段席の大きなホールで、同時通訳の音声が行き交うイヤホン付きのレシーバーがみんなに配られます。前方のテーブルに各国の代議員が座り、後ろでは、その何倍ものオブザーバーたちが真剣に討議に聞き入りました。

「雇用差別をなくさなければ」というアメリカの発言に対して、アフガニスタンの代議員が「まず平和がなければ、何も始まらない。WBUも平和の実現のためにもっと何かすべきだ」と応え、別の国が「私のところでは雇用よりも教育だ。特に盲人の女性の置かれた状況が酷い」と発言する。それに対して、WBUのリーダーたちは「まず、あなたの地域でネットワークを作り、自分たちに何ができるのか、WBUがどう協力できるのか、具体的なビジョンを持って提案してほしい。今あなたがここにいることの意味は大きいのだから」と応える。

そんなやりとりの1つひとつから、さまざまな状況下で強く生きている視覚障害者たちの力強いエネルギーがひしひしと伝わってきました。

シャンプー容器のギザギザに強い関心

ところで、私が持参した触覚で識別できる日本のシャンプー・リンス容器は、そのアイデアが他の容器への応用が可能なこともあり、大きな関心を集めました。今回は個人的な体当たり状態だったのですが、世界の異なる地域から心強い協力者たちを得て、メールでのやりとりを始めています。

将来、共用品推進機構、あるいはISOとWBUがこの分野で協力し合えたら、きっと大きな成果が得られるでしょう。あらゆる製品が世界中で流通する今、「みんなにとって使いやすい一般向け製品」なら、福祉先進国と発展途上国のバリアだって簡単に超えてしまえるのですから。

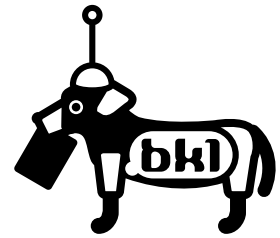
## 機構ホームページから書籍購入が可能に オンライン書店「bk1」と提携

2000年12月より、共用品推進機構のホームページ（URL：<http://kyoyohin.org/>）から直接、機構関係の書籍を購入できるようになった。大手オンライン書店の「bk1（ビーケイワン）」と提携、機構サイトの「広報活動」欄に紹介した出版物のコンテンツから、bk1サイトにリンクする形で書籍を注文できるようにした。

bk1は(株)ブックワン(石井昭社長 = 共用品推進機構理事)が運営、主にインターネットを通じた書籍販売を手がけており、宅配便などを利用して発注者の手元に直接届ける。書籍の品揃えが豊富で、納品までの時間がスピーディーなことを売り物にしている。

機構ホームページに紹介した書籍1点1点の右下

にbk1のマークを付けて、このマークをクリックすると、bk1の注文ページ



へと飛ぶ仕組みになっている。書籍の在庫状況、金額なども一目で確認でき、簡単に購入できる。

また、各種不便さ調査報告書など、機構が発行している自主刊行物については書店での店頭販売を行っていないので、引き続き機構事務局に直接申し込んでいただく方法で販売する。今回、ホームページからの注文をしやすいように、「報告書」を別ページにまとめ、簡単に購入申し込みできるように改良した。

一度アクセスしてみたい。(森川美和)

## 『平成12年版 障害者白書』、共用品を大特集！

総理府がこのほど刊行した『平成12年版 障害者白書』に、共用品が詳しく取り上げられている。「バリアフリー社会を実現するもの作り」をテーマに、障害のある人々もない人々も同じように自立して社会活動に積極的に参加できる社会を実現するためのバリアフリーの推進を、みんなが使う用具や製品の面から特集している。共用品の情報収集には必須の資料と言えそうだ。

1993（平成5）年11月に障害者の自立と社会参加を一層促進するために成立した「障害者基本法」の概況を中心に初めて公表された『平成6年版 障害者白書』。その内容は障害と障害者を理解し、全員参加の社会づくりを目指して、障害者に関する施策を推進していく必要性を説くものだった。

翌94年に発行された平成7年版は「バリアフリー社会をめざして」をテーマに掲げ、民間での取り組みの例としてE&Cプロジェクト（共用品推進機構の前身）が紹介された。続く同8年版のテーマは

「障害者プランの着実な推進」、同9年版は「生活の資質向上をめざして」、同10年版が「『情報バリアフリー』社会の構築に向けて」、同11年版は「ノーマライゼーションの世界的展開」である。

12年版白書は2部構成になっており、第1部は「障害のある人の生活を豊かにする福祉用具と共用品」、第2部が「平成11年度を中心とした障害者施策の取組」。第1部は全6章からなり、「バリアフリー思想のあゆみ」、「バリアフリーともの作り」、「福祉用具」などについて言及、第4章では20数頁にわたり「共用品」の特集が組まれている。共用品の背景から定義、現状、施策などさまざまな観点から共用品を捉え、その必要性に迫っている。

『平成12年版 障害者白書』は本体価格1900円（税別）、全国の政府刊行物センター、書店などで販売している。共用品推進機構ホームページ（URL：<http://kyoyohin.org/>）からも、オンライン書店「bk1」に直接注文できる。（森川美和）

# 「新ISO《ガイド71》シンポジウム」を開催

2月13日に東商ホールで、大阪でも2月20日に

共用品推進機構は2月13日(火)に東京・丸の内内の東商ホールで、「中小企業のための新ISO《ガイド71》シンポジウム～高齢者・障害者に配慮した製品・サービス・環境の国際規格」を開く。東京商工会議所、生活・福祉環境づくり21と共催、経済産業省と東京都が後援。入場無料、手話通訳付き。

まず、ISO(国際標準化機構)高齢者・障害者配慮ワーキンググループ議長である菊地眞<sup>きくちまこと</sup>・防衛医科大学教授が「高齢者・障害者配慮のモノづくりと国際標準化」と題して基調講演。続いて、「超高齢社会に喜ばれるモノとサービス・開発の極意～企業・行政・消費者の立場から～」をテーマにパネル・ディスカッションを行う。コーディネーターは

大熊由紀子<sup>おおくまゆきこ</sup>・朝日新聞論説委員、パネリストは荒木由季子<sup>あらかきゆきこ</sup>・経済産業省医療福祉機器産業室長、奥山康夫<sup>おくやまやすお</sup>・㈱オリエンタルランド常務取締役、菊地眞<sup>きくちまこと</sup>・防衛医科大教授、富山幹太郎<sup>とみやまかんたろう</sup>・㈱トミー代表取締役社長。

定員は400人(先着順)。参加希望者は、2月2日(金)までにファクスで、東京商工会議所産業政策部(担当=山崎・清水<sup>やまざきしみず</sup>、TEL:3283-7631、FAX:3213-8716)あてに申し込みを。

なお、関西地区でも2月20日(火)に、大阪・南港のATCエイジレスセンターで同様のシンポジウムを開催する。問い合わせは同センター(TEL:06-6615-5123)まで。(高嶋健夫)

## 事務局長だより

星川 安之<sup>ほしかわ やすゆき</sup>

### 20世紀最後の「大転換」そして、ワクワクの新世紀へ!

……『平成12年版障害者白書』の特集は「福祉機器と共用品」。平成7年版の同白書に、総理府障害者対策推進本部担当室長だった小池将文氏<sup>こいけまさふみ</sup>(現川崎医療大学教授・共用品推進機構評議員)が行政の白書の中に初めて「共用品」を取り上げていただいてから5年目の“事件”だ。

20世紀の最終段階で、共用品を取り巻く環境は大きく変化した。障害者・高齢者には、少々値段が高くても専用の福祉機器が当たり前だった時代から、福祉機器にも一般機器にも入らない、逆に言えば、どちらにも入る「共用品」の考え方が市民権を得ることになった、と実感する。

……「助け」の対象だった障害者・高齢者は、「バリアフリー」という言葉の定着と共に、「共に何かを行

う存在」へと方向転換しつつあるように見える。

95年度4500億円だった共用品の市場規模も、98年度には1兆4500億円に。そして99年度も増加の一途をたどっている。20年前までの産業界のベクトルでは想像もできなかった状況である。

業界団体の対応も変わってきた。シャンプー容器のギザギザの例のように、先駆的企業の提案を業界全体が受け止めて、広げるという活動に留まらず、家庭用ラップフィルムなどのように、業界全体で対応を検討し、「ヨーイドン」で一斉に実行という業界も増えてきている。

国際的にも、1998年にISO/CO POLCO<sup>コ</sup>(国際標準化機構・消費政策委員会)総会において、これまでの日本の動きをベースに国際的な基準づくりを提案。満場一致で可決され、近くその成果がISOから公表される段階を迎えている。

……この20年間の変化は喜びであり、感謝に堪えないが、その半面、課題も多く残っている。

1つは企業。多くの企業が「社会貢献」「超高齢社会への対応」「企業イメージの向上」などさまざまな入り口から、「共用品推進」というフロアに入る。だが、その途端、この部屋でできることは限られていると気づき、大半は次の階へと向かう。ただし、次の部屋に進む通路は完成しているとは限らない。半ばで途切れ、自らの手で作り上げなくては行けない通路の方がむしろ多いのだ。

もう1つの課題は、子供たちに「共用品・共用サービス」の考え方をいかに正確に、そして興味深く伝えるかである。それも、彼らが「自ら課題を発見し、新たな解決案を発見できる」ような伝え方を、大人である私たちはどう実現していくか。

始まったばかりの21世紀に、そんな課題を思い起こし、ますます「ワクワク」している。( )

## 『インクル』バックナンバーのご案内

ご購入希望の方は、事務局までお申し込みください。



創刊号 1999年7月



第2号 1999年9月



第3号 1999年11月



第4号 2000年1月



第5号 2000年3月



第6号 2000年5月



第7号 2000年7月



第8号 2000年9月



第9号 2000年11月

『インクル』は共用品推進機構の機関誌です！

共用品情報誌『インクル』は隔月刊で発行し、個人・法人賛助会員の皆様に郵送でお届けしています。共用品推進機構では引き続き、個人・法人賛助会員を募集しています。年会費は、個人が1人1万2000円、法人が1口20万円。入会申し込み・お問い合わせは、下記の事務局までお願いいたします。

『インクル』は共用品の専門情報誌です！

新製品・サービスの発売、新技術の開発、展示会やイベントの開催、常設展示場の開設—共用品・共用サービスに関するニュースの提供をお待ちしています。リリース、資料などは事務局『インクル』編集部まで。また、広告の出稿もお待ちしています。『インクル』の読者は共用品・共用サービスの普及を担うオピニオン・リーダーです。出広媒体としても積極的にご活用ください。広告料金表は事務局にご用意していますので、お問い合わせください。

『インクル』は消費者と企業をつなぐ架け橋です！

個人の寄稿・投稿も大歓迎。「バリアフリーサービスの素敵なお店」「心のバリアフリー体験談」「海外ユニバーサルデザイン事情」などなど、個人賛助会員の皆様、法人賛助会員の読者の方々からのご意見を、お手紙、FAX、電子メールで、事務局『インクル』編集部までお寄せください。

作る人と使う人の共用品情報誌

### インクル 第10号

2001(平成13)年1月15日発行

"Incl." vol.3 no.10

©The Kyoyo-Hin Foundation, 2001

隔月刊、奇数月に発行

一般頒価 1部1000円

(但し、個人・法人賛助会員については、購読料は年会費の中に含まれています)

視覚障害のある方など、墨字版がご利用できない方にはTXTファイルのフロッピーディスクを提供しています。必要のある方は、事務局までお申し出ください。

編集・発行 (財)共用品推進機構

郵便番号101-0064

東京都千代田区猿楽町2-5-4 OGAビル8F

電話：03-5280-0020

ファクス：03-5280-2373

Eメール：jimukyoku@kyoyohin.org

ホームページURL：http://kyoyohin.org/

発行人 鴨志田厚子

事務局 星川 安之

森川 美和

橋本 英和

編集長 高嶋 健夫

執筆・協力 青木 誠

(五十音順) 草地美穂子

小塚 通宏

後藤 芳一

高橋 玲子

牧内 智子

山本 明彦

制作 日経BPクリエイティブ

印刷・製本 光写真印刷(株)

本誌の全部または一部を視覚障害者やこのままの形では利用できない方々のために、非営利の目的で点訳、音訳、拡大複写することを承認いたします。その場合は、(財)共用品推進機構までご連絡ください。

上記以外の目的で、無断で複写複製することは著作権者の権利侵害になります。